



市内図書館

- 中央図書館 (LIC はびきの内) 軽里 1-1-1 ☎ 950-5501
- 陵南の森図書館 島泉 8-8-1 ☎ 952-2750
- 羽曳が丘図書館 羽曳が丘西 2-5-1 ☎ 957-5553
- 丹比図書館 樺山 251-1 ☎ 937-2355
- 東部図書館 古市 1541-1 ☎ 950-2002

■開館時間 10:00 ~ 18:00 (※中央図書館は 10:00 ~ 20:00)

- 古市図書館 ☎ 958-0050 (水~日曜日 10:00 ~ 17:30)
- ブックステーションはびきのコアセラム ☎ 937-7210 (火・木・金曜日 13:30 ~ 16:30)

●ちびっこサロン~おはなし・手遊び・おりがみ など~

[日時] 6月8日(水) 10:30 ~

[場所] 森のゆうびん局 (市役所敷地内)

●おはなしボランティア入門講座

<講師> 岸下 良子氏 (おはなしボランティアグループ「はびきの」)

日時	10:00 ~ 12:00 6月2日、16日、7月7日、21日、 8月4日 (すべて木曜日)
場所	中央図書館 会議室

先着 15人

[申込] 中央図書館にて受付 (電話可)

6月のおはなし会		
羽曳が丘図書館	11日(土), 25日(土)	15:00
古市図書館	18日(土)	15:00
陵南の森図書館	12日(日), 26日(日)	11:00
	18日(土)	15:00
	19日(日)	・11:00 (小さい子向き) ・11:30 (少し長いお話を聞ける子向き)
中央図書館	12日(日), 19日(日), 26日(日)	13:30
丹比図書館	25日(土)	10:30
東部図書館	8日(水)	10:30

読んでみませんか? ~新着図書~

『謎のアジア納豆』

高野 秀行 / 著 <新潮社>
納豆という食べ物、日本独自のものではなく、様々な姿を変えてアジア各地に存在しています。その驚くべき実態を追う、気鋭のノンフィクション。



『モカと幸せのコーヒー』

刀根 里衣 / 作 <NHK出版>
疲れきっていた僕の前に現れ、コーヒーを淹れてくれた小さなさぎのモカ。僕がひどいことを言っても、変わらずにそばにいてくれる。君はどこから来たんだろう?



『ねこどけい』

きしだ えりこ / 作
やまわき ゆりこ / 絵
<福音館書店>
鳩時計の中にいる鳩と遊びたくて仕方がない猫は、とうとう時計を壊してしまいました。そこで修理を頼まれた時計屋さんがしたことは…。



休館のお知らせ (6月)

コンピュータシステムの更新および資料の整理などのため、5月23日より引き続き、下記の日程は休館となります。

●休館日●
6月1日(水)~5日(日)、30日(木)

※期間中は市内の全図書館が休館します。※6月1日(水)~5日(日)は、インターネットサービス(検索・予約・貸出期間の延長など)もご利用いただけません。ご了承ください。

サラダボール

「ママの当たり前は、しんどい。ママの当たり前は私の当たり前じゃない。」
これは、10年前に長女から私に投げつけられた心の叫びでした。初めての子育てで戸惑いながら、ひたすら一生懸命に、子どもにとって良かれと信じることを実践し続ける毎日でした。自分にとっての当たり前という『ものさし』は、そのまま子どもに当てはまらないんだと思ひ知らされました。

人が変わったように荒れていく子どもを前に、どうしたらいいのか解らない日々が続きました。苦悩の中、もう踏み張り切れないというところで、最後の踏み張る力となったのは、私の悩みに耳を傾けてくださった方の存在や、その方からかけて頂いた言葉でした。

「母親の気持ちはよくわかる。あきらめず、子どもを想う気持ちを完全に切ってしまうなれば、必ず子どもは戻ってくるから。」と。

この言葉を信じようと何度も自分に言い聞かせ、この言葉にすがりました。このとき、言葉に支えられている自分がいることに気づき、とても驚きました。心がこもった言葉は、こんなにも人を支えるのかとしみじみと感じ、言葉の持つ力を実感しました。

子どもの成長を信じて待つことは、確かな保証もなく、不安でとても苦しいことです。でも、そこを精一杯踏み張りながら見守り、子どもの成長を一層よき喜びあう積み重ねが、子育ての醍醐味なのかなと感じます。

わたし、子どものおかげで、たくさ

んの親子と出会い、様々な声に耳を傾ける機会を持つことができました。また、自分の子どもだけでなく、周りの子ども達も共に育てる大切さを知りました。『共に支え合う』『みんなで子どもを育てる』この意識が大切だと感じます。

子育てに限らず、一人ひとりが他人のために自分にできることをする。一人ひとりの差し伸べる手と手がつながっていけばいいなと思うのです。

あれから10年、長女もまた母となり、命を大切に育てています。「この子がやんちゃになっても、その気持ちがわかる親でよかったね。自分がやんちゃやったから。」「ほんまや。」などと笑いあひながら。

はびきの しじんけんけいはつすいしんきょうぎかい
羽曳野市人権啓発推進協議会